

## 校異源氏物語・しるかもと

きさらきのはつかのほとに兵部卿の宮はつせにまうて給ふるき御願なりけれとおほしもたゝてとしころになりにけるをう治のわたりの御なかやとりのゆかしさにおほくはもよほされ給へるなるへしうらめしといふ人もありけるさとのなのなへてむつましうおほさるゝゆへもはかなしやかむたちめいとあまたつかうまつり給殿上人などはさらにもいはすよにのこるひとすくなうつかうまつれり六条の院よりつたはりて右大殿しり給所は川よりをちにいとひろくおもしろくてあるにおほむまうけさせ給へりおとゝもかへさの御むかへにまいりたまふへくおほしたるをにはかなる御物いみのおもくつゝしみ給ふへく申たなれはえまいらぬよしのかしこまり申給へり宮なますさましとおほしたるにさい将の中將けふの御むかへにまいりあひ給へるに中々心やすくてかのわたりのけしきもつたへよらむと御心ゆきぬおとゝをはうちとけてみえにくゝことくしき物に思ひきこえ給へり御この君たち右大弁しゝうのさい将権中将とうの少将くら人の兵衛のすけなとさふらひ給みかときさきも心ことに思ひきこえ給へる宮なれば大方の御おほえもいとかきりなくまいて六条の院の御かたさまはつきく人の人もみなわたくしの君に心よせつかうまつり給ところにつけて御しつらひなとおかしうしなしてこすくろくたきのはむともなとゝりいてゝ心心にすさひくらし給宮はならひ給はぬ御ありきになやましくおほされてこゝにやすらはむの御心もふかけれはうちやすみ給て夕つかたそ御ことなとめてあそひ給例のかうよはなれたる所は水のをともてはやしてものゝねすみまさる心ちしてかのひしりの宮にもたゝさしわたるほとなれはをひ風に吹くるひゝきを聞給にむかしのことおほしいてられてふえをいとおかしうもふきとをしたなるかなたれならんむかしの六条院の御ふえのねきゝしはいとおかしけにあい行つきたる音にこそ吹給しかこれはすみのほりてことくしきけのそひたるはちしのおとゝの御そこのふえの音にこそにたなれなとひとりこちおはすあはれに久しう成にけりやかやうのあそひなとせであるにもあらてすくしきにけるとし月のさすかにおほくかそへらるゝこそかひなけれなどの給ついてにもひめ君たちの御有さまあたらしくかゝる山ふどころにひきこめてはやますもかなとおほしつゝけら

るさい将の君のおないうはちかきゆかりにてみまほしけなるをさしもおもひよ  
るましかめりまいていまやうの心あさからむ人をはいかてかはなとおほしみた  
れつれ／＼となかめ給所は春の夜もいとあかしかたきを心やり給へるたひねの  
やとりはゑいのまきれにいとどうあけぬる心ちしてあかすかへらむことを宮は  
おほすはる／＼とかすみわたれる空にちる桜あれは今ひらけそむるなど色／＼  
みわたさるゝに川そひ柳のおきふしなひく水かけなどおろかならすおかしきを  
みならひ給はぬ人はいとめつらしくみすてかたしとおほさるさい将はかゝるた  
よりをすくさすかの宮にまうてはやとおほせとあまたの人めをよきてひとりこ  
きいて給はんふなわたりのほともころらかにやとおもひやすらひ給ほとにかれ  
より御ふみあり

山風にかすみふきとくこゑはあれとへたてゝみゆるをちのしら浪さうにい  
とおかしうかき給へり宮おほすあたりのとみ給へはいとおかしうおほいてこの  
御返はわれせんとて

をちこちの汀になみはへたつともなをふきかよへうちの河風中将はまうて  
給あそひに心入たる君たちさそひてさしやり給ほとかむすいらくあそひて水に  
のそきたるらうにつくりおろしたるはしの心はえなとさる方にいとおかしうゆ  
へある宮なれは人々心して舟よりおり給こゝは又さまことに山さとひたるあし  
ろ屏風などのことさらにことそきてみところある御しつらひをさる心してかき  
はらひいといたうしなし給へりいにしへのねなといとになきひき物ともをわさ  
とまうけたるやうにはあらてつき／＼ひきいて給て一こつてうの心にさくら人  
あそひ給ふあるしの宮御きむをかゝるついてにと人々思給へれとさうのことを  
そ心にもいれすおり／＼かきあはせ給みゝなれぬけにやあらむいと物ふかくお  
もしろしとわかき人々思しみたり所につけたるあるしいとおかしうし給てよそ  
におもひやりしほとよりはなまそむ王めくいやしからぬ人あまたおほきみ四位  
のふるめきたるなとかく人めみるへきおりとかねていとおしかりきこえけるに  
やさるへきかきりまいりあひてへいしとる人もきたなけならすさるかたにふる  
めきてよし／＼しうもてなし給へりまらうとたちは御むすめたちのすまひ給ふ  
らん御有さま思やりつゝ心つく人も有へしかの宮はまいてかやすきほとならぬ  
御身をさへところせくおほさるゝをかゝる折にたにとしのひかね給ておもしろ  
き花のえたをおらせ給て御ともにさふらふうへわらはのおかしきして奉り給  
山さくらにほふあたりにたつねきておなしかさしをおりてける哉のをむつ  
ましみとやありけん御かへりはいかてかはなときこえにくゝおほしわつらふか

ゝるおりのことわざとかましくもてなしほどのふるも中くにくきことになむ  
しはへりしなとふる人ともきこゆれは中君にそかゝせてまつり給

かさしおる花のたよりに山かつのかきねをすきぬ春のたひ人のをわきてし

もといとおかしけにらうくしくかきたまへりけに川風も心わかぬさまにふき  
かよふものゝねともおもしろくあそひ給ふ御むかへにとう大納言おほせことに  
てまいり給へり人ゝあまたまいりつとひ物さはかしくてきおひかへり給わかき  
人ゝあかすかへりみのみせられける宮は又さるへきついてしてとおほす花さか  
りにてよものかすみもなかくめやるほどの見所あるにからのもやまのもうたと  
もおほかれとうるさくてたつねもきかぬなり物さはかしくておもふまゝにもえ  
いひやらすなりにしをあかす宮はおほしてしるへなくとも御ふみはつねにあり  
けり宮もなをきこえ給へわざとけさうたちでもてなさし中く心ときめきに  
もなりぬへしいとすき給へるみこなればかゝる人なむと聞給かなをもあらぬす  
さひなめりとそゝのかし給ふ時ゝ中の君そきこえ給ひめ君はかやうのことたは  
ふれにももてはなれ給へる御心ふかさなりいつとなく心ほそき御有さまに春の  
つれくはいとゝくらしかたくなかめ給ねひまさり給御さまかたちともいよ

くまさりあらまほしくおかしきも中く心くるしくかたほにもおはせましかは  
あたらしうおしきかたのおもひはうすくやあらましなどあけくれおほしみたる  
あね君廿五中君廿三にそなり給ける宮はおもくつゝしみ給へきとしなりけり物  
心ほそくおほして御おこなひ常よりもたゆみなくし給世に心とゝめ給はねはい  
てたちいそきをのみおほせはすゝしきみちにもおもむき給ぬへきをたゝこの御  
ことゝもにいとくおしくかきりなき御心つよさなれとかならず今はとみすて  
給はむ御心はみたれなむとみたてまつる人もをしはかりきこゆるをおほすさま  
にはあらずともなのめにさても人きゝくちおしかるましようみゆるされぬへきき  
はの人のま心にうしろみきこえんなどおもひよりきこゆるあらはしらすかほに  
てゆるしてむひとゝころくよにすみつき給よすかあらはそれをみゆつるかた  
になくさめをくへきをさまでふかき心にたつねきこゆる人もなしまれくはか  
なきたよりにすきこときこえなとする人はまたわかくしき人の心のすさひに  
物まうての中やとりゆきゝのほとのをさきことにけしきはみかけてさすかに  
かくなかめ給有さまなどをしはかりあなつらはしけにもてなすはめさましようて  
なけのいらへをたにせさせ給はす三宮そ猶みてはやましとおほす御心ふかゝり  
けるさるへきにやおはしけむさい将の中将その秋中納言になり給ぬいとゝにほ  
ひまさり給世のいとなみにそへてもおほすことおほかりいかなることゝいふせ

く思わたりし年ころよりも心くるしうてすぎ給にけむいにしゑさまの思やらるゝにつみかろくなり給はかりおこなひもせまほしくなむかのおい人をはあはれる物に思をきていちしるきさまならずとかくまきはしつゝ心よせとふらひ給うちにまうてゝひさしうなりにけるを思いてゝまいり給へり七月はかりに成にけり宮こにはまたいらたゝぬ秋のけしきをゝとはの山ちかく風の音もいとひやゝかにまきの山へもわつかに色つきて猶たつねきたるにおかしうめつらしうおほゆるを宮はまいて例よりもまちよろこひきこえ給て此たひは心ほそけなる物語いとおほく申給なからむ後この君たちをさるへきものゝたよりにもとふらひおもひすてぬ物にかすまへ給へなとおもむけつゝきこえ給へはひとことにてもうけたまはりをきてしかはさらに思給へおこたるましくなん世中に心をとゝめしとはふき侍身にてなにとまたのもしけなきおいさきのすくなさになむはへれとさるかたにてもめくらいはへらむかきりはかはらぬ心さしを御らむししらせんとなむ思給ふるなときこえ給へはうれしとおほひたり夜ふかき月のあきらかにさしいてゝ山のはちかき心ちするにねむすいとあはれにし給てむかし物かたりし給この比の世はいかゝなりにたらむくちうなどにてかやうなる秋の月に御まへの御あそひのおりにさふらひあひたる中にもゝ上すとおほしきかきりとりくゝにうちあはせたるひやうしなことくゝしきよりもよしありとおほえある女御かういの御つほねくゝのをのかしゝはいとましく思うはへのなさをかはすへかめるによふかき程の人のけしめりぬるに心やましくかいしらへほのかにほころひいてたるものゝねなときゝ所あるかおほかりしかなゝに事にもをんなはもてあそひのつまにしつへくものはかなき物から人の心をうこかすくさはいになむ有へきされはつみのふかきにやあらんこの道のやみを思やるにもをのこはいとしもおやの心をみたさすやあらむ女はかきりありていふかひなきかたに思すつへきにもなをいと心くるしかるへきなとおほかたのことにつけての給へるいかゝさおほさゝらむ心くるしく思やらるゝ御心のうち也すへてまことにししか思給へすてたるけにやはへらむみつからのことにてはいかにもくゝふかう思るかたのはへらぬをけにはかなきことなれとこゑにめつる心こそそむきかたきことに侍りけれさかしうひしりたつかせうもされはやたちてまひはへりけむなときこえてあかすひとこゑきゝし御ことのねをせちにゆかしかり給へはうとくゝしからぬはしめにもとやおほすらむ御みつからあなたにいり給てせちにそゝのかしきこえ給さうのことをそいとほのかにかきならしてやみ給ぬるいとゝ人のけはひもたえてあはれなるそらのけしきところのさまにわさとなき

御あそひの心にいりておかしうおほゆれとうちとけてもいかてかはひきあはせ  
給はむをのつからかはかりならしそめつるのこりはよこめれるとちにゆつりき  
こえてんとて宮は仏の御前にいり給ひぬ

我なくて草の庵りはあれぬともこのひとはかれしと思かゝるたいめ

んもこのたひやかきりならむともの心ほそきにしのひかねてかたくなしきひか  
ことおほくもなりぬるかなとてうちなき給まらうと

いかならむ世にかかれせむなかきよの契むすへる草のいほりはすまひなど

おほやけことゝもまきれはへる比すきて候はむなときこえ給こなたにてかのと  
はすかたりのふる人めしいてゝのこりおほかる物かたりなとせさせ給いりかた  
の月くまなくさし入てすきかけなまめかしきに君たちもおくまりておはすよの  
つねのけさうひてはあらす心ふかう物かたりのとやかにきこえつゝものし給へ  
はさるへき御いらへなときこえたまふ三宮いとゆかしうおほいたる物をと心の  
うちには思いてつゝ我心なかなを人にはことなりかしさはかり御心もてゆる  
ひ給ことのさしもいそかれぬよもてはなれてはたあるましきことゝはさすかに  
おほえすかやうにて物をもきこえかはしおりふしの花もみちにつけてあはれを  
もなさけをもかよはすにゝくからす物し給あたりなれはすくせことにてほかさ  
まにもなり給はむはさすかに口おしかるへう両したる心ちしけりまたよふかき  
ほとにかへり給ぬ心ほそくのこりなけにおほいたりし御けしきを思いてきこえ  
給つゝさはかしきほとすくしてまうてむとおほす兵部卿の宮もこの秋のほとに  
もみちみにおはしまさむとさるへきついてをおほしめくらす御ふみはたえすた  
てまつり給をんなはまめやかにおほすらんとも思給はねはわつらはしくもあら  
てはかなきさまにもてなしつゝおりゝにきこえかはし給秋ふかくなり行まゝ  
に宮はいみしう物心ほそくおほえ給ければ例のしつかなる所にて念仏をもまき  
れなうせむとおほして君たちにもさるへきこときこえ給世のことゝしてついの  
わかれをのかれぬわさなめれとおもひなくさまんかたありてこそかなしさを  
さます物なめれまたみゆつる人もなく心ほそけなる御有さまともをうちすてゝ  
むかいみしきことされともさはかりのことにさまたけられてなかき世のやみに  
さへまとはむかやくなさをかつみたてまつるほとたに思うつる世をさりなんう  
しろのことしるへきことにはあらねと我身ひとつにあらすゝき給にし御おもて  
ふせにかかるゝしき心ともつかひ給なおほろけのよすかならて人のことにうち  
なひきこの山さとをあくかれ給なたゝかう人にたかひたる契ことなる身とおほ  
しなしてこゝによをつくしてんと思とり給へひたふるに思なせはことにもあら

すゝきぬる年月なりけりましてをんなはさるかたにたえこもりていちしるくいとをしけるよそのときをおはさらむなんよかるへきなどの給ともかくも身のならんやうまてはおほしもなかされすたゝいかにしてかをくれたてまつりては世にかた時もなからふへきとおほすにかく心ほそきさまの御あらましことにいふかたなき御心まとひとにもなむ心のうちにこそおもひすて給つらめとあけくれ御かたはらにならはいたまうてにはかにわかれ給はむはつらき心ならねとけにうらめしかるへき御有さまになむありけるあすいり給はむとての日は例ならすこなたかなたたゝすみありき給てみ給いものはなかりそめのやとりにてすくひ給ける御すまひの有さまをなからむ後いかにしてかはわかき人のたえこもりてはすくひ給はむと涙くみつゝねんすし給さまいときよけなりおとなひたる人ゝめしいてゝうしろやすくつかうまつれなに事もゝとよりかやすく世にきこえ有ましきゝはの人はずゑのおとろへもつねのことにてまきれぬへかめりかゝるきはになりぬれは人はなにと思はさらめと口おしうてさすらへむ契かたしけなくいとおしきことなむおほかるへき物さひしく心ほそきよをふるは例の事也むまれたるゑのほとをきてのまゝにもてなしたらむなむきゝみゝにもわか心ちにもあやまちなくはおほゆへきにきはゝしくひとかすめかむと思ともその心にもかなふましきよとならゆめくゝかろくゝしくよからぬかたにもてなしきこゆなゝとの給またあか月にいて給とてもこなたにわたり給てなからむほと心ほそくなおほしわひそ心はかりはやりてあそひなとはし給へなにことも思にえかなふましき世をおほしいられそなとかへりみかちにて出給ぬふた所いとゝ心ほそくもの思つゝけられておきふしうちかたらひつゝひとりゝなからましかはいかてあかしくらさまし今行すゑもさためなき世にてもしわかるゝやうもあらはなとなきみわらひみたはふれこともまめこともおなし心になくさめかはしてすくし給かのおこなひ給三まい今日はてぬらんといつしかとまちきこえ給夕くれに人まいりてけさよりなやましくてなむえまいらぬかせかとてとかくつくろふものするほどになむさるは例よりもたいめむ心もとなきをと聞え給へりむねつふれていかなるにかとおほしなけき御そともわたあつくていそきせさせ給てたてまつれなし給二三日おこたり給はすいかにゝと人たてまつり給へとことにおとろくゝしくはあらすそこはかとなくくるしうなむすこしもよろしくならはいまねんしてなとことにはにて聞え給あさりつとさふらひてつかうまつりけるはかなき御なやみとみゆれとかきりのたひにもおはしますらん君たちの御事なにかおほしなけくへき人はみな御すくせといふ物ことゝなれば

御心にかゝるへきにもおはしますといよくおほしはなるへきことをきこえ  
しらせつゝ今さらにないて給そといさめ申成けり八月廿日のほとなりけりおほ  
かたの空のけしきもいとゝしきころ君たちはあさゆふきりのはるゝまもなくお  
ほしなけきつゝなかも給あり明の月のいとはなやかにさしいてゝ水のおもても  
さやかにすみたるをそなたのしとみあけさせてみいたし給へるにかねのこゑか  
すかにひゝきてあけぬなりときこゆるほとに人ゝきてこの夜なかばかりになむ  
うせ給ぬるとなくく申す心にかけていかにとはたえす思きこえ給へれとうち  
きゝ給にはあさましく物おほえぬ心地していとゝかゝることには涙もいつちか  
いにけんたゝうつふしふし給へりいみしきめもみるめのまへにておほつかな  
らぬこそつねのことなれおほつかなさそひておほしなけくこととはり也しは  
しにてもをくれたてまつりて世に有へき物とおほしならはぬ御心ちともにてい  
かてかはをくれしとなきしつみ給へとかきりあるみちなりければなにのかひな  
しあさりとし比契りをき給けるまゝに後の御こともよろつにつかうまつるなき  
人になり給へらむ御さまかたちをたに今一たひみたてまつらんとおほしの給へ  
といまさらになてうさることかはへるへき日ころも又あひ給ましきことをきこ  
えしらせつれば今はましてかたみに御心とゝめ給ましき御心つかひをならひ給  
へきなりとのみきこゆおはしましける御有さまをきゝ給にもあさりのあまりさ  
かしきひしり心をにくゝつらしとなむおほしける入道の御ほいはむかしよりふ  
かくおはせしかとかうみゆつる人なき御ことゝものみすてかたきをいけるかき  
りはあけくれえさらすみたてまつるを世に心ほそき世のなくさめにもおほしは  
なれかたくてすぐひ給へるをかきりあるみちにはさきたち給もしたひ給御心も  
かなはぬわさ也けり中納言殿にはきゝ給ていとあえなく口おしく今一たひ心の  
とかにてきこゆへかりけることおほうのこりたる心ちしておほかた世の有さま  
おもひつゝけられていみしない給又あひみることかたくやなどの給しをなを  
つねの御心にもあさ夕のへたてしらぬ世のはかなさを人よりけに思給へりしか  
はみゝなれて昨日けふと思はさりけるを返さあかすかなしくおほさるあさりの  
もとにも君たちの御とふらひもこまやかにきこえ給かゝる御とふらひなど又を  
とつれきこゆる人たになき御有さまなるものおほえぬ御心ちともにとしこ  
ろの御心はえのあはれなめりしなどをも思しり給よのつねのほとわかれたに  
さしあたりては又たくひなきやうにのみみな人の思まどふ物なめるをなくさむ  
かたなけなる御身ともにていかやうなる心地ともし給らむとおほしやりつゝ後  
の御わさなと有へきことゝもをしはかりてあさりにもとふらひ給こゝにもおい

人ともにことよせて御す経などのことも思やり給あけぬよの心ちなから九月にもなりぬの山のけしきましてそてのしくれをもよをしかにともすれはあらそひおつるこのはをと水のひゝきも涙のたきもひとつものゝやうにくれまひてかうてはいかてかゝきりあらむ御いのちもしはしめくらい給はむとさふらふ人ゝは心ほそくいみしくなくさめきこえつゝこゝにもねむ仏のそうさふらひておはしましゝかたは仏をかたみにみたてまつりつゝ時ゝまいりつかうまつりし人ゝの御いみにこもりたるかきりはあはれにおこなひてすす兵部卿の宮よりもたひゝとふらひきこえ給さやうの御かへりなときこえん心ちもし給はすおほつかなければ中納言にはかうもあらさなるを我をはなを思はなち給へるなめりとうらめしくおほすもみちのさかりにふみなとつくらせ給はむとていてたち給しをかくこのわたりの御せうようひむなきころなれはおほしとまりて口おしくなん御いみもはてぬかきりあれば涙もひまもやとおほしやりていとおほくかきつゝけ給へりしくれかちなるゆふつかた

をしがなく秋の山さといかならむこ萩か露のかゝる夕くれたゝ今の空のけしきおほしゝらぬかほならむあまり心つきなくこそ有へけれかれゆく野へもわきてなかめらるゝ比になむなとありけにいとあまり思しらぬやうにてたひゝゝになりぬるをなをきこえ給へなとなかの宮をれいのそゝのかしてかゝせてまつり給けふまでなからへてすゝりなとちかくひきよせてみるへき物とやほ思し心うくもすきにけるひかすかなとおほすに又かきくもりものみえぬ心ちし給へはをしやりてなをえこそかきはへるましけれやうゝかうおきゐられなしはへるかけにかきりありけるにこそとおほゆるもうとましう心うくてとらうたけなるさまになきしほれておはするもいと心くるし夕くれのほとよりきける御つかひよひすこしすきてそきたるいかてかゝへりまいらんこよひはたひねしといはせ給へとたちかへりこそまいりなめといそけはいとおしうて我さかしう思しつめ給にはあらねとみわつらひたまひて

なみたのみきりふたかれる山里はまかきに鹿そもろこゑになくゝろきかみによるのすみつきもたゝゝしければひきつくろふところもなくふてにまかせてをしつつみていたし給ひつ御つかひはこはたの山のほとあめもよにいとおそろしけなれとさやうの物をちすましきをやえりいて給けむゝつかしけなるさゝのくまをこまひきとゝむるほともなくうちはやめてかた時にまいりつきぬ御まへにてもいたくぬれてまいりたれはろくたまふさきゝ御らむせしにはあらぬてのいますこしおとなひまさりてよしつきたるかきさまなどをいつれかい



れならむとうちもをかす御らむしつゝとみにもおほとこのもらねはまつとてお  
きおはしまし又御らむするほどのひさしきはいかはかり御心にしむことならん  
とおまへなる人々さゝめききこえてにくみきこゆねふたければなめりまたあさ  
きりふかきあしたにいそきおきてたてまつり給

あさきりにともまとはせる鹿の音をおほかたにやはあはれともきくもろこ

ゑはおとるましくこそとあれとあまりなさけたゝんもうるさしひとゝころの御  
かけにかくろへたるをたのみにてこそなにことも心やすくてすこしつれ  
心より外になからへておもはすなることのまきれつゆにてもあらはうしろめた  
けにのみおほしをくめりしなき御たまにさへきすやつけたてまつらんなへて  
いとつゝましうおそろしうてきこえ給はすこの宮などをかろらかにをしなへて  
のさまにも思きこえ給はすなけのはしりかいたまへる御ふてつかひことのはも  
おかしきさまになまめき給へる御けはひをあまはみしり給はねとみたまひな  
からそのゆへくしくなさけあるかたにことをませきこえむもつきなき身の有  
さまともなれはなにかたゝかゝる山ふしたちてすくしてむとおほす中納言殿の  
御かへりはかりはかれよりもまめやかなるさまにきこえ給へはこれよりもいと  
けうとけにはあらすきこえかよひ給御いみはてゝもみつからまうて給へりひむ  
かしのひさしのくたりたるかたにやつれておはするにちかう立より給てふる人  
めしいてたりやみにまとひ給へる御あたりにいとまはゆくにほひみちていりお  
はしたれはかたはらいたうて御いらへなとをたにえし給はねはかやうにはもて  
なひ給はてむかしの御心むけにしたかひきこえ給はんさまならむこそきこえう  
け給るかひあるへけれなよひけしきはみたるふるまひをならひ侍らねはひとつ  
てにきこえはへるはこのはもつゝきはへらすとあれはあさましう今までなか  
らへはへるやうなれと思さまさんかたなき夢にたとられはへりてなむ心より外  
に空のひかりみはへらむもつゝましうてはしちかうもえみしろきはへらぬとき  
こえ給へれはことゝいへはかきりなき御心のふかさになむ月日のかけは御心も  
てはれくしくもていてさせ給はゝこそつみもはへらめゆくかたもなくいふせ  
うおほえはへり又おほさるらむはしくゝをもあきらめきこえまほしくなむと申  
給へはけにこそいとたくひなけなめる御有さまをなくさめきこえ給御心はえの  
あさからぬほとなときこえしらす御心ちにもさこそいへやうく心しつまりて  
よろつ思しられ給へはむかしさまにてもかうまてはるけきのへをわけいり給へ  
る心さしなとも思しり給へしすこしゑさりより給へりおほすらんさま又の給契  
しことなといとこまやかになつかしういひてうたてをゝしきけはひなとはみえ

給はぬ人なれはけうとくすゝろはしくなとはあらねとしらぬ人にかくこゑをきかせたてまつりすゝろにたのみかほなることなともありつるひころを思つゝくるもさすかにくるしうてつゝましかれとほのかにひとことなといらへきこえ給さまのけによろつ思ほれ給へるけはひなれはいとあはれときゝたてまつり給ふくろき木丁のすきかけのいと心くるしけなるにましておはすらんさまほのみしあけくれなと思いてられて

色かはるあさちをみてもすみそめにやつるゝ袖を思ひこそやれとひとりこ

とのやうにのたまへは

色かはる袖をはつゆのやとりにてわか身そさらにをき所なきはつるゝいと

はとすゑはいひけちていといみしくしのひかたきけはひにていり給ぬなりひきとゝめなとすへきほとにもあらねはあかすあはれにおほゆおい人そこよなき御かはりにいてきてむかし今をかきあつめかなしき御ものかたりともきこゆありかたくあさましきことゝもをもみたる人なりければかうあやしくおとろへたる人ともおほしすてられすいとなつかしうかたらひ給いはけなかりしほとにこ院にをくれたてまつりていみしうかなしき物は世なりけりと思しりにしかはひとゝなり行よはひにそへてつかさくらゐ世中のにほひもなにともおほえすななゝかうしつやかなる御すまゐなどの心になひ給へりしをかくはかなくみなしたてまつりなしつるにいよくゝいみしくかりそめの世の思しらるゝ心ももよほされにたれと心くるしうてとまり給へる御ことゝものほたしなときこえむはかけゝしきやうなれとなからへてもかの御ことあやまたすきこえうけたまはらまほしさになんさるはおほえなき御ふる物かたりきゝしよりいとゝ世中にあとゝめむともおほえすなりにたりやうちなきつゝの給へはこの人はましていみしくなきてえもきこえやらす御けはひなどのたゝそれかとおほえ給にとし比うちわすれたりつるいにしへの御ことをさへとりかさねてきこえやらむかたもなくおほゝれるたりこの人はかの大納言の御めのとこにてちゝはこのひめ君たちの母きたのかたのはゝかたのをち左中弁にてうせにけるかこなりけりとしころとをきくにあくかれはゝ君もうせ給てのちかのとのにはうとくなりこの宮にはたつねとりてあらせ給なりけり人もいとやむことなからすみやかへなれにたれと心ちなからぬ物に宮もおほしてひめ君たちの御うしろみたつ人になし給へるなりけりむかしの御ことはとしころかくあさゆふにみたてまつりなれ心へたつるくまなく思きこゆ君たちにもひとことうちいてきこゆるついてなくしのひこめたりけれと中納言の君はふる人のとはすかたりみなれいのことなれはをし

なへてあはくしうなとはいひひろけすともいとはつかしけなめる御心ともに  
はき、をき給へらむかしとをしはからるゝかねたくもいとおしくもおほゆるに  
そ又もてはなれてはやましとおもひよらるゝつまにもなりぬへき今はたひねも  
すゝろなる心ちしてかへり給にもこれやかきりのなどの給しをなとかさしもや  
はどうちたのみて又みたてまつらすなりにけむ秋やはかはれるあまたの日かす  
もへたてぬほとにおはしにけむかたもしらすあえなきわさなりやことに例のひ  
とめいたる御しつらひなくいとこそき給めりしかといと物きよけにかきはら  
ひあたりおかしくもてない給へりし御すまゐもたいとこたちいていりこなたか  
なたひきへたてつゝ御ねむすのくともなとそかはらぬさまなれと仏はみなかの  
てらにうつしたてまつりてむとすときこゆるをきゝ給にもかゝるさまのひとか  
けなどさへたえはてんほどゝまりて思給はむ心ちともをくみきこえ給もいとむ  
ねいたうおほしつゝけらるいたくくれはへりぬと申せはなかめさしてたち給に  
かりなきてわたる

秋きりのはれぬ雲ゐにいとゝしくこのよをかりといひしらすらむ兵部卿の

宮にたいめんし給時はまつこの君たちの御ことをあつかひくさにし給今はさりと  
も心やすきをとおほして宮はねん比に聞え給けりはかなき御かへりもきこえ  
にくゝつゝましきかたにをむなかたはおほいたりよにいたうすき給へる御  
名のひろこりてこのましくえむにおほさるへかめるもかういとうつもれたるむ  
くらのしたよりさしいてたらむてつきもいかにうゑくしくふるめきたらむな  
と思ひ給へりさてもあさましうてあけくらさるゝは月日成けりかくたのみか  
たかりける御よを昨日今日とは思はてたゝおほかたさためなきはかなさはかり  
をあけくれのことにきゝみしかと我も人もくれさきたつほとしもやはへむな  
とうち思けるよきしかたを思つゝくるもなにのたのもしけなる世にもあらさり  
けれとたゝいつとなくのとかになかめすくしものおそろしくつゝましきことも  
なくてへつる物を風のをともあらゝかに例みぬ人かけもうちつれこはつくれは  
まつむねつふれて物おそろしくわひしうおほゆることさへそひにたるかいみし  
うたへかたきことゝふた所うちかたらひつゝほすよもなくてすくし給にとしも  
くれにけり雪あられふりしくころはいつくもかくこそはある風のをとなれと今  
はしめて思いりたらむやますみの心ちし給ふをむなはらなとあはれとしはかは  
りなんとす心ほそくかなしきことをあらたまるへき春まちいてゝしかなと心を  
けたすいふもありかたき事かなときゝ給むかひの山にも時々御念仏にこもり  
給しゆへこそ人もまいりかよひしかあさりもいかゝとおほかたにまれにとつ

れきこゆれと今はなにしかはほめきまいらむいと、人めのたえはつるもさ  
るへきこと、思なからいとかなしくなんなにともみさりし山かつもおはしまさ  
て後たまさかにさしのそきまいるはめつらしくおもほえ給このころのこと、て  
たき、このみひろひてまいる山人ともありあさりのむろよりすみなとやうの物  
たてまつるとてとしころにならひはへりにける宮つかへの今とてたえはつらん  
か心ほそさになむときこえたりかならす冬こもる山風ふせきつへきわたきぬな  
とつかはし、をおほしいて、やり給ほうしはらわらはへなどの、ほり行もみえ  
みみえすみいとゆきふかきをなくくちたちいて、みをくり給御くしなどをろい  
たまうてけるさるかたにておはしまさしかはかやうにかよひまいる人もをの  
つからしけからましいかにあはれに心ほそくともあひみたてまつることたえて  
やま、しやはなとかたらひ給ふ

君なくて岩のかけみちたえしより松の雪をもなにとかはみるなかの宮

おく山の松葉につもる雪とたにきえにし人を思はましかはうらやましくそ

又もふりそふや中納言の君あたらしきとしはふとしもえとふらひきこえさらん  
とおほしておはしたりゆきもいと、ころせきによろしき人たにみえすなりにた  
るをなのめならぬけはひしてかろらかにものし給へる心はえのあさうはあらす  
思しられ給へは例よりはみいれておましなどひきつくろはせ給すみそめならぬ  
御火をけおくなるとりいて、ちりかきはらひなとするにつけても宮のまぢよ  
ろこひ給し御けしきなどを人々もきこえいつたいめんし給ことをはつ、まし

くのみおほいたれと思くまなきやうに人の思給へれはいか、はせむとてきこ  
え給うちとくとはなけれとさきくよりはすこしことのはつ、けてものなどの  
給へるさまいとめやすく心はつかしけなりかやうにてのみはえすくしはつまし  
と思なり給もいとうちつくなる心かな、をうつりぬへきよなりけりと思ゑ給へ  
り宮のいとあやしくうらみ給ふことはへるかなあはれなりし御ひとことをう  
け給りをきしさまなとことのついてにもやもらしきこえたりけんまたいとくま  
なき御心のさかにてをしはかり給にやはらんこ、になむともかくもきこえさ  
せなすへきとたのむをつれなき御けしきなるはもてそなひきこゆるそとたひ  
くゝゑんし給へは心より外なること、思たまふれとさとのしるへいとこよなう  
もえあらかひきこえぬをなにかはいとさしも、てなしきこえ給はむすい給へる  
やうに人はきこえなすへかめれと心の底あやしくふかうおはする宮なりなをさ  
りことなどの給わたりの心かろうてなひきやすなるなどをめつらしからぬもの  
に思おとし給にやとなむきくこともはへるなにもあるにしたかひて心を

たつるかたもなくおとけたる人こそたゝ世のもてなしにしたかひてとあるもかゝるものめにみなしすこし心にたかふふしあるにもいかゝはせむさるへきそなとも思なすへかめれは中／＼心なきためしになるやうもありくつれそめてはたつたの川のこるなをもけかしいふかひなくなこりなきやうなることなどもみなうちまじるめれ心のふかうしみ給ふへかめる御心さまにかなひことにそむくことおほくなと物し給はさらむをはさらにかろ／＼しくはしめをはりたかふやうなることなとみせ給ましきけしきになむ人のみたてまつりしらぬことをいとうみきこえたるをもしにつかはしくさもやとおほしよらはそのもてなしなどは心のかきりつくしてつかうまつりなむかし御なかみちのほとみたりあしこそいたからめといとまめやかにていひつゝけ給へは我御身つからのことゝはおほしもかけす人のおやめきていらへんかしとおほしめくらし給へとなをいふへきことのほなき心ちしていかにとかはかけ／＼しけにの給つゝくるに中／＼きこえんこともおほえはへらてとうちわらひ給へるもおいらかなるものからけはひおかしうきこゆかならず御みつからきこしめしおふへきことゝも思給へすそれは雪をふみわけてまいりきたる心さし計を御らんしわかむ御このかみ心にもすくさせ給てよかしかの御心よせはまたことにそはへかめるほのかにの給さまもはへめりしをいさやそれも人のわきゝこえかたきこと也御返などはいつかたにかはきこえ給とゝひ申給にようそたはふれにもきこえさりけるなにとなれとかうの給にもいかにはつかしうむねつふれましと思にえこたへやり給はす

雪ふかき山のかけはしきみならてまたふみかよふあとをみぬかなとかきてさしいて給へれば御物あらかひこそなか／＼心をかれはへりぬへけれとてつらゝとち駒ふみしたく山川をしるへしかてらまつやわたらむさらはしもかけさへみゆるしるしもあさうは侍らしときこえ給へは思はすにものしうなりてことにいらへ給はすけさやかにいと物とをくすくみたるさまにはみえ給はねといまやうのわか人たちのやうにえむけにももてなさていとめやすくのとかなる心はえならむとそをしはかられ給ひとの御けはひなるかうこそはあらまほしけれと思にたかはぬ心ちし給ことにふれてけしきはみよるもしらすかほなるさまにのみもてなし給へは心はつかしうてむかし物かたりなどをそものまめやかにきこえ給くれはてなはゆきいとゝ空もとちぬへうはへりと御ともの人ゝこはつくれはかへり給なむとて心くるしうみめくらさるゝ御すまゐのさまなりやたゝ山さとのやうにいとつかなる所の人もゆきましらぬはへるをさもおほしか

けはいかにうれしくはへらむなどの給もいとめてたかるへきことかなとかたみゝにきゝてうちゑむ女はらのあるを中の宮はいとみくるしういかにさやうには有へきそとみきゝる給へり御くた物よしあるさまにてまゐり御ともの人ゝにもさかなゝとめやすきほとにてかはらせしいてさせ給けり又御うつりかもてさはかれしとのゐ人そかつらひけとかいふつらつき心つきなくてあるはかなの御たのもし人やとみ給てめしいてたりいかにそおはしまさて後心ほそからむななととひ給うちひそみつゝこゝろよはけになく世中にたのむよるへもはへらぬ身にてひとゝころの御かけにかくれて卅よねんをすくしはへりにければいまはましての山にましりはへらむもいかなる木の本をかはたのむへくはへらむと申ていとゝ人わろけなりおはしましゝかたあけさせ給へはちりいたうつもりて仏のみそ花のかさりおとろへすおこなひ給ひけりとみゆる御ゆかなとゝりやりてかきはらひたりほいをもとけはとちきりきこえしこと思いてゝ

たちよらむかけとたのみししゐかもとむなしきとこになりにける哉とては

しらによりる給へるをもわかき人ゝはのそきてめてたてまつる日くれぬれはちかき所ゝにみそうなとつかうまつる人ゝにみまくさとりにやりける君もしり給はぬにゐなかひたる人ゝはおとろゝしくひきつれまいりたるをあやしうはしたなきわさかなと御らむすれとおい人にまきらはし給つおほかたかやうにつかうまつるへくおほせをきていて給ひぬとしかはりぬれは空のけしきうらゝかなるにみきはのこほりとけたるを有かたくもとなめ給ひしりのほうよりゆきゝえにつみてはへるなりとてさはのせりわらひなとたてまつりたりいゝゐの御たいにまいれる所につけてはかゝるくさきのけしきにしたかひて行かふ月日のしるしもみゆるこそおかしけれなど人ゝのいふをなにのおかしきならむときゝ

給

君かおるみねのわらひとみましかはしられやせまし春のしるしも

雪ふかき汀のこせりたかためにつみかはやさんおやなしにしてなとはかな

きことゝもをうちかたらひつゝあけくらし給中納言殿よりも宮よりもをりすくさすとふらひきこえ給うるさくなにとなきことおほかるやうなれは例のかきもらしたるなめり花さかきのころ宮かさしをおほしいてゝそのおりみきゝ給し君たちなどいゝとゆへありしみの御すまゐるを又もみすなりにしことなど大かたのあはれをくちゝきこゆるにいとゆかしうおほされけり

つてにみしやとのさくらをこの春はかすみへたてすおりてかさゝむと心を

やりての給へりけりあるましきことかなとみ給なからいとつれゝなるほとに

みところある御ふみのうはへはかりをもてけたしとて

いつことかたつねておらむすみそめにかすみこめたるやとの桜をなをかく

さしはなちつれなき御けしきのみ、ゆれはまことに心うしとおほしわたる御心にあまり給てはた、中納言をとさまかうさまにせめうらみきこえ給へはおかしと思なからいとうけはりたるうしろみかほにうちいらへきこえてあためいたる御心さまをもみあらはす時／＼はいかてかか、らんにはなと申給へはみやも御心つかひし給へし心になふあたりをまたみつけぬほとそやとの給おほと、六の君をおほしいれぬ事なまうらめしけにおと、もおほしたりけりされとゆかしけなきなからひなるうちにもおと、のこと／＼しくわつらはしくてなに事のまきれをもみとかめられんかむつかしきとしたにはの給てすまゐ給そのとし三条の宮やけて入道の宮も六条の院にうつろひ給ひなにくれと物さはかしきにまきれてうちのわたりをひさしうをとつれきこえ給はすまめやかなる人の御心は又いとなりけれはいのとかにをのか物とはうちたのみなからをむなの心ゆるひ給はさらむかきりはあされはみなさけなきさまにみえしと思つ、むかしの御心わすれぬかたをふかくみしり給へとおほすそのとしつねよりもあつさを人わふるに河つら涼しからむはやと思いて、にはかにまうて給へりあさす、みのほとにいて給ければあやにくにさしくる日かけもまはゆくて宮のおはせしにしのひさしにとのゑ人めしいて、おはすそなたのもやの仏の御まへにきみたちものし給けるをけちか、らしとてわか御かたにわたり給御けはひしのひたれとをのつからうちみしろき給ほとちかうきこえければなをあらしにこなたにかようさうしのはしのかたにかけかねしたる所にあなのすこしあきたるをみをき給へりければとにたてたるひやうふをひきやりてみ給こ、もとに木丁をそへたてたるあなくちおしと思てひきかへるおりしも風のすたれをいたうふきあくへかめれはあらはにもこそあれその木丁をしいて、こそといふ人あなりおこかましくきもの、うれしうてみ給へはたかきもみしかきも木丁をふたまのすにをしよせてこのさうしにむかいてあきたるさうしよりあなたにとおらんとなりけりまつひとりたちいて、木丁よりさしのそきてこの御ともの人ゝのとかうゆきちかひす、みあへるをみ給ふなりけりこきにひいろのひとへにくわんさうのはかまもてはやしたる中／＼さまかはりてはなやかなりとみゆるはきなし給へる人からなめりおひはかなけにしなしてす、ひきかくしてもたまへりいとそひやかにやうたひおかしける人のかみうちきにすこしたらぬほとならむとみえてすゑまてちりのまよひなくつや／＼とこちたううつくしけなりかたははらめなどあなら

うたけとみえてにほひやかにやはらかにおほときたるけはひ女一の宮もかうさ  
まにそおはすへきとほのみたてまつりしも思くらへられてうちなけるまたゐ  
さりいてゝかのさうしはあらはにもこそあれとみをこせ給へるやういうちとけ  
たらぬさましてよしあらんとおほゆかしらつきかむさしのほと今すこしあてに  
なまめかしきさまなりあなたに屏風もそへてたてゝはへりついそきてしものそ  
き給はしとわかき人ゝなりに心なくいふありいみしうもあるへきわさかなとてう  
しろめたけにゐさりいり給ふほとけたかう心にくきはひそひてみゆくろきあ  
はせひとかさねおなしやうなるいろあひをき給へれとこれはなつかしうなまめ  
きてあはれけに心くるしうおほゆかみさはらかなるほとおちたるなるへしす  
ゑすこしほそりていろなりとかいふめるひすひたちていとおかしけにいとをよ  
りかけたるやうなりむらさきのかみにかきたる経をかたてにもち給へるてつき  
かれよりもほそさまさりてやせゝなるへしたちたりつるきみもさうしくちに  
ゐてなにかあらむこなたをみをこせてわらひたるとあひきやうつきた  
り